

## 平成30年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：平成30年7月11日（水）午後2時～午後4時10分

場 所：豊田中央図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 8名

事務局 7名

関係課 6名

指定管理者 2名

### （1）図書館運営について

事 務 局：平成29年度の図書館運営について説明

平成30年度中央図書館の取組について説明

指定管理者：図書館開館20周年記念イベントについて説明

委 員：平成29年度入館者数は増加しているが、貸出冊数は減少している。  
館内で図書を閲覧するだけの利用者が増えているのか。それともイベントなどの参加人数が増加しているのか。

事 務 局：両方考えられる。来館するが、図書は借りずに帰るという人が増えている。イベントの参加者を貸出に繋げていきたい。

委 員：入館者数について、1か月毎など細かく分析してはどうか。

事 務 局：事業概要 P38 に、1か月毎の統計を掲載している。3月・4月は入館者が少なく、7月・8月は夏休みのため利用が多い。利用者が多い時期だけでなく、少ない時期にも来館しててもらえるようなイベントを考えていきたい。

委 員：夏の利用が多いのは、高校生が勉強に来るからか。

事 務 局：それも理由の1つである。6月も試験期間のため、高校生の利用者が多い。

委 員：3月に英文多読講座に参加した。中央館には英語の図書も多くあり、子ども向け講座を開催してはどうか。日本人が英語に親しむきっかけになれば良い。

事 務 局：小学校でも英語授業が必修化されている。子育て世代向けの講座開催を検討していく。現在英語の読み聞かせグループが2つあるため、ボランティアを活かして読み聞かせの頻度を増やしていきたい。同時に図書資料の活用も行う。

委 員：20周年事業では、当日だけでなく事前に関連展示など行う予定は

あるか。

指定管理者：自動車関連の展示などを行う予定。

委員：図書館で実施しているイベントの参加者は、リピーターが多いのか  
新規参加者が多いのか。

事務局：半分ずつ程度。各イベント・講座によって変わる。

委員：図書館以外の公共施設でイベントを知り、参加する人はいるのか。

事務局：イベントの対象者が利用しそうな施設には、チラシやポスターの設置を依頼している。それを見てイベントに来る人もいる。

委員：ポスターなどを掲示している施設と、共催でイベントを実施してはどうか。

事務局：指定管理者制度を昨年度導入したばかりで、現状ではまだ難しい。  
ただ、バリアフリー映画上映会では、市の福祉部と連携して展示などを行っている。

委員：高校の図書室は図書が少ない。市の図書館として、支援策はあるか。

事務局：学校や園を対象に、団体貸出という事業を行っている。図書館の本を1度に50冊まで借りられ、授業などで使用できる。また、秋にリサイクルブックフェアの開催を予定しており、リサイクル本も活用してほしい。

委員：平成29年度の指定管理者の評価が「○」となっているが、課題であると感ずる部分はあるか。

事務局：課題であると感ずる部分は、イベントや事業の周知を行う部分である。昨年度は、図書館内でのPRが多かったが、今後は連携施設を通じて図書館以外にも広く情報が伝わるよう工夫していきたい。また、様々な地域から通っている職員がいるため、豊田市について知ってもらおう機会を増やしたい。

委員：今後の具体的な数値目標として、来館者数を設定するのか。または、貸出冊数を目標とするのか。

事務局：より多くの利用を目指すことから、今目標としているのは来館者数である。

委員：平成30年度の実績として、ブックスタートボランティアなどに対する講座とあるが、ボランティアは何人程度いるのか。また、この講座はどの年代の人が受けているのか。

指定管理者：講座は、ボランティアだけでなく一般の方も参加している。

事務局：ブックスタートボランティアは、読み聞かせボランティアとほぼ同年代である。また、地域差はあるが、ブックスタートボランティアは50名以上いる。

- 委員：司書率が向上したことにより、具体的にどのような効果があったか。  
また、図書館内のイベントや展示は誰が企画しているのか。平成29年度の指定管理者の評価は「○」だが、「◎」にするため指定管理者にどのようなことを求めるか。
- 事務局：まず、イベントなどの企画は指定管理者が行っている。司書率の向上によって、イベントや展示のテーマの幅が広がり、スピード感もある。また、昨年度新図書館システムを導入したことにより窓口対応の時間が減少した。その部分の浮いた時間・人材をどのように活かすかが課題になると考えている。

## (2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

- 事務局：平成29年度取組実績・平成30年度取組計画について説明
- 関係課：平成30年度取組計画について説明
- 委員：今は乳幼児でもお気に入りの絵本があり、ブックスタートが根付いてきている証拠だと感じる。絵本とあまり関わりがなかった親に対して読み聞かせをし、親子で絵本を好きになってもらいたい。
- 委員：今年度から、中学校の部活動の時間が減り、中学生が家にいる時間が増えた。今まで部活動に費やしていた時間が、ゲームやインターネットではなく、本に目を向ける時間になると良いと思う。11月にビブリオトークを開催予定とのことだが、本に興味がないティーンズ世代には、面白さが伝わりにくい。あまり本を読まない人へのきっかけづくりになると良い。
- 事務局：ビブリオトークで本の紹介をするには、ある程度の読書経験が必要だが、紹介を聞くだけでも同世代の人と本を通じて話す機会になると思う。このようなイベントなどの情報を集め、発信していきたい。多くの人に気軽に本を手にとってもらいたいと思う。
- 委員：部活動がなくなった時間をどのように活用するのか、学校は考えているか。
- 関係課：家庭学習や休養など、部活動が忙しくてできていなかったことに時間を使ってほしいと考えている。読書もしてほしいが、心身ともにゆとりのある生活になれば良いと思う。
- 委員：豊田市子ども読書活動アクションプランは、どのように検証を行うのか。
- 事務局：平成29年度の事業を評価した基準に沿って検証する。また2020年度にはアンケートを実施する。今後は、国が実施しているアンケートを参考に、国と市で比較ができるように項目を設定する予定。

必要な質問は取り入れ、豊田市独自の項目も入れていく。

委員：学校独自で、読書に関するアンケートなどは行っているか。

関係課：昨年度まではあった。しかし、多忙化解消の流れなどもあり、今年度からは国が実施しているアンケートに沿ったものになる。

委員：地域支援事業を活用し、地域の人々の力を借りて空いた時間をカバーするのも良いと思う。

関係課：2020年までに、すべての地区で地域支援本部の設置がされる予定。地域のボランティアに部活動や下校指導などを行ってもらう。

委員：「交流館などにおけるおはなし会・出前講座の開催」について。ボランティアに頼っている部分がある。ボランティアのモチベーションを高めるための支援策はあるか。

関係課：ボランティアのモチベーションを維持し続けることは難しく、予算もないためお礼などができない。フォローができず、活動をやめてしまう人もいる状況。

委員：ネットワーク館の図書の出冊数は、どのような状況か。

事務局：落ち込んでいる。図書館全体として激減はしていないが、中央館よりネットワーク館の減少傾向が強い状況。読書離れが進んでいることを考えると、減少傾向にあることが通常だと考えられる。逆に、中央館は来館者数が増加しているため、貸出冊数の減少が比較的緩やかになっている。この減少が一時的なものなのかどうかは、現状では判断できない。

以上